

# 「発達障害」って？

いいですか、「他人とかかわる練習をする場」が「きらり」なのです。

**志水** 発達障害の人は、これまでの人生で「人の集団から弾き出されてつらい思いをした体験」を重ねてきています。そういうつらい体験だけでなく、「よい人間関係の体験」もあるということを、「きらり」で体験してほしいと思っています。

**Q** 「人間関係における成功体験」というか。

**志水** そうですね。そういう成功体験を積み重ねることによって「社会は怖い」「人間関係は苦手だ」という意識が変えられたいと思います。

**市田** プログラムを通して、「人に認めてもらう体験」とか「集団の中で、ある役割を果たす体験」をすることによって人間関係に対する自信がつかぬのです。

**志水** それと、同じような苦しさを味わってきた仲間と「きらり」で出会うことによって、「自分の気持ちをわかってもらえる」という喜びも体験できますね。

**市田** 特に「発達障害専門プログラム」では、同じASDを持ったメンバーたちが集まるので、みんなで「発達障害のある体験」を語り合って盛り上がりたりますね(笑)。

もちろん、実社会と同じように、「きらり」で人間関係の失敗を体験することも、時にはあります。でも、実社会で人間関係で失敗したら大変ですが、「きらり」では失敗しても大丈夫なんです。スタッフがちゃんとフォローしますし、失敗も「人との距離の保ち方」の貴重なトレーニングとなります。

**Q** 発達障害の人にとって「きらり」は、得難い「仲間と出会い、さまざまな体験をできる場所」となっているのですね。ありがとうございます。

取材と原稿／前原政之（まえはらまさゆき）  
1964年栃木県生まれ。1年のみの編プロ勤務を経て、87年23歳でフリーに。ライター歴31年。



宇治おうばく病院

精神科デイケア リハビリセンター きらり



精神科の診断を受けておられる方が、再発や再入院をせずに、地域社会で役割を持ちながら充実した生活を送れるよう支援する、通所型のリハビリテーション・サービスです。生活リズムや体力の回復に加えて、社会で人と関わる中で必要となる対人技能やコミュニケーション力の練習や、疾患についての勉強なども行っています。



「きらり」の位置は、このようなイメージです。自分のペースで過ごせる生活と、ストレスのかかる社会生活の中間にあります。自宅療養からそのまま社会生活に戻ると、そのギャップで疲れてしまうことがあります。

「きらり」では決まった時間に動く生活リズムや体力を回復させ、自分の得手不得手を再確認して自己理解を深めることができます。また、「きらり」をベースにして、社会に出たあとに慣れるまで相談や休息をする場所として使っていただくことも可能です。

「きらり」には先々仕事をするを目的としている方が多くおられますが、それだけでなく、ご自身のこれからの生活や役割を考え、探していく方のお手伝いもしています。「まだまだ先のことは考えられないけど……」という方でも、通所されている皆さんとともにプログラム活動を行う中で、ご自分の方向性を見いだしていけます。

- 開所時間**
- 月～金 9時～15時(9時～12時、12時～15時のショート利用可能)
  - 最低利用回数 週2回ショート(状態によって相談可能です)
  - 利用期限 3年(最終の1年はフォローアップの期間です)
  - スタッフ 医師・看護師・臨床心理士・精神保健福祉士・作業療法士

**ご利用方法** 利用希望の方は、まずは見学にお越しください。見学は随時お受けしています。

**tel. 0774-31-1360** (内線/3625 もしくは 3627)